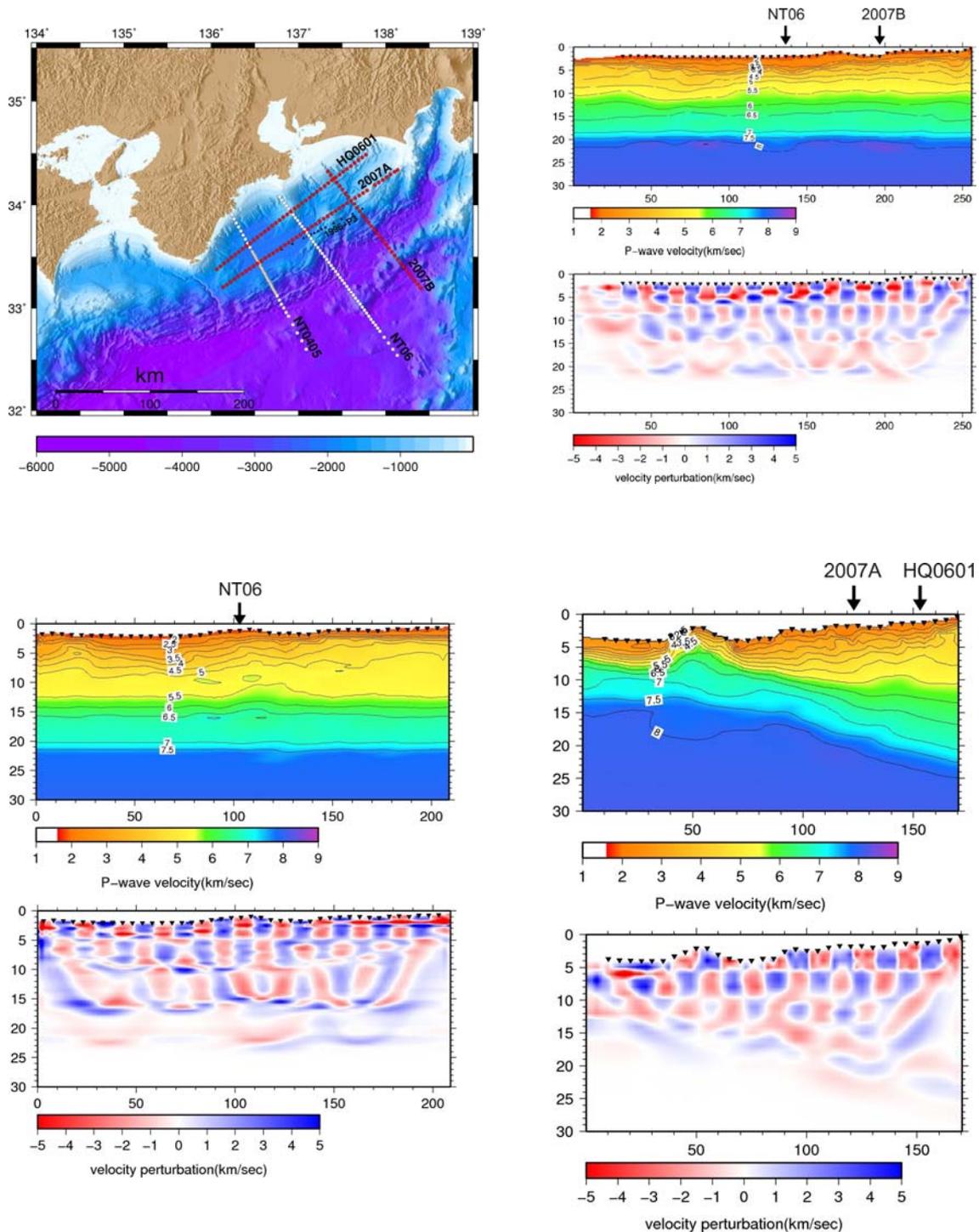


グラビア

(1) 東南海・南海地震に関する調査研究

(1) (a) 東南海・南海地震の想定震源域におけるプレート形状等を把握するための構造調査研究

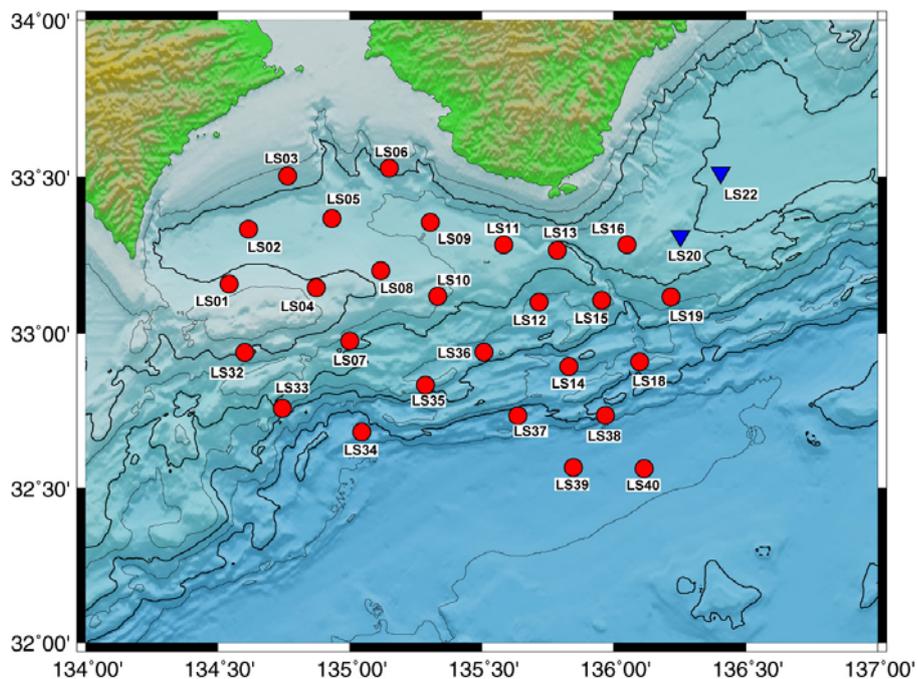
(3. 1. 1. 参照)



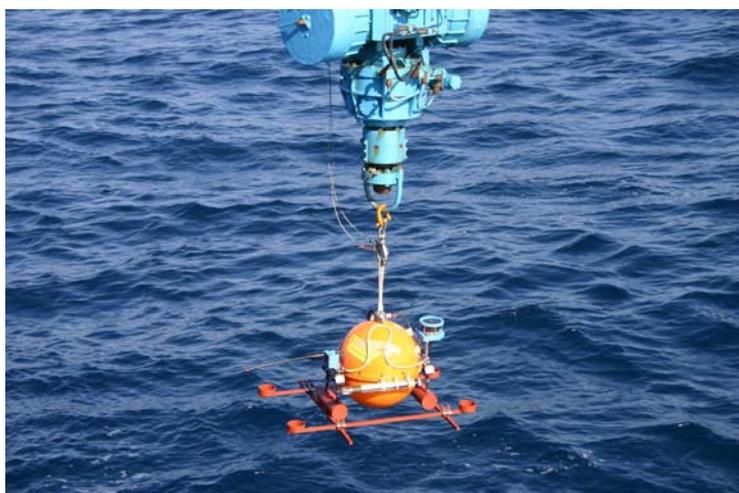
(1) (b) 東南海・南海地震の想定震源域および周辺におけるより正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

(1) (b) 1) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

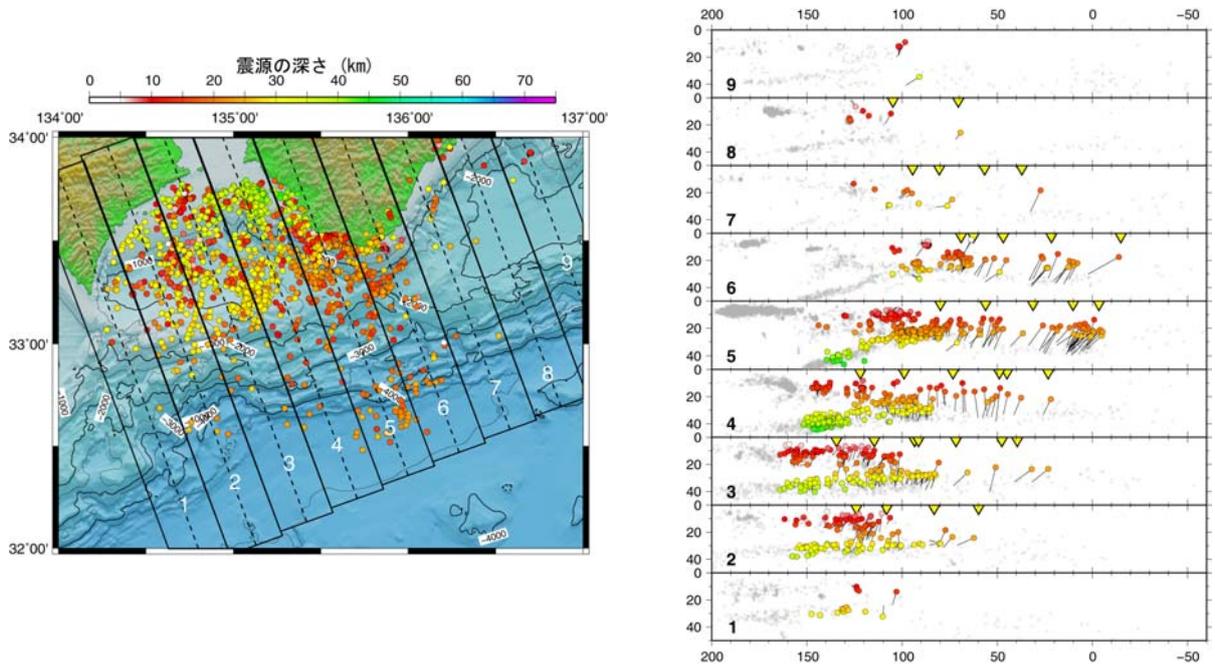
(3. 1. 2. 1. 参照)



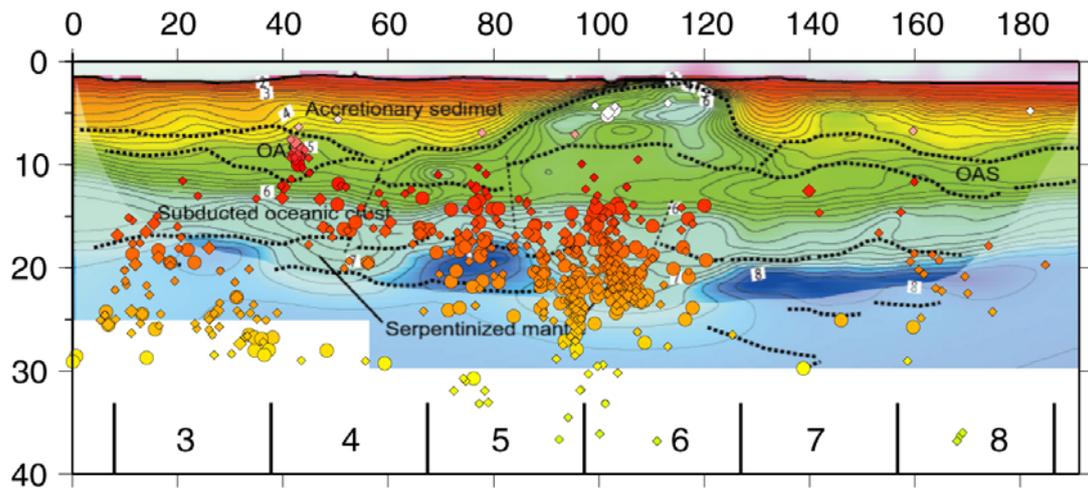
平成 19 年度に実施した長期観測型海底地震計による観測点配置



観測に使用している長期観測型海底地震計（投入作業風景）

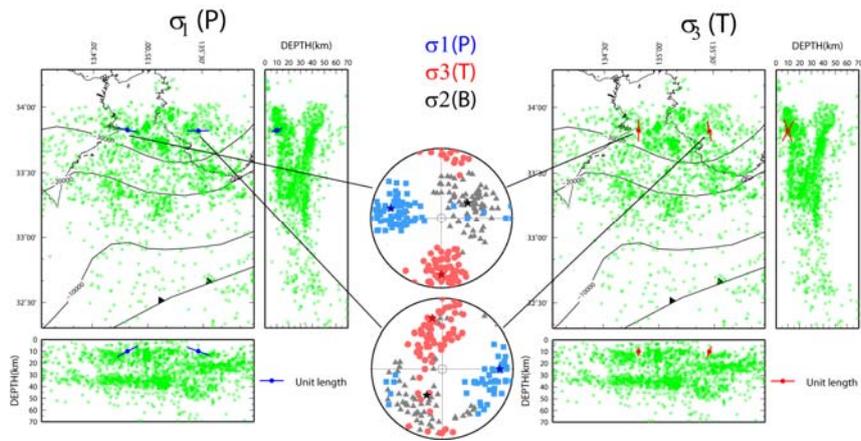


本調査研究による再決定震源と気象庁一元化震源との比較

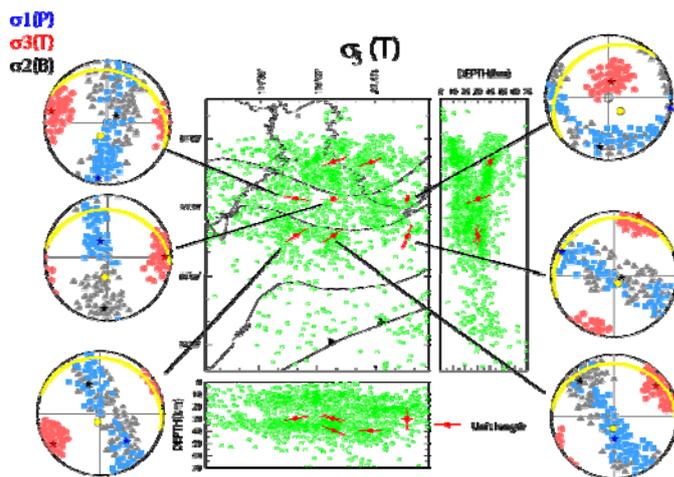


再決定震源と想定震源域境界域の地殻構造との対応 — 海溝軸平行方向

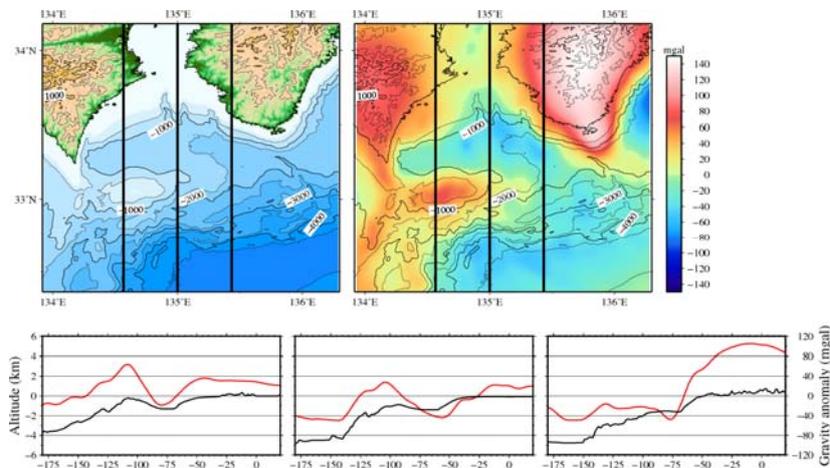
- (1) (b) 2) 想定震源域および周辺における地殻構造と地震活動の対比等に関する研究
 (3. 1. 2. 2. 参照)



上盤側（島弧地殻）の応力場



フィリピン海スラブ上面の σ_3 軸の方向とそれぞれのグリッドでの応力テンソル



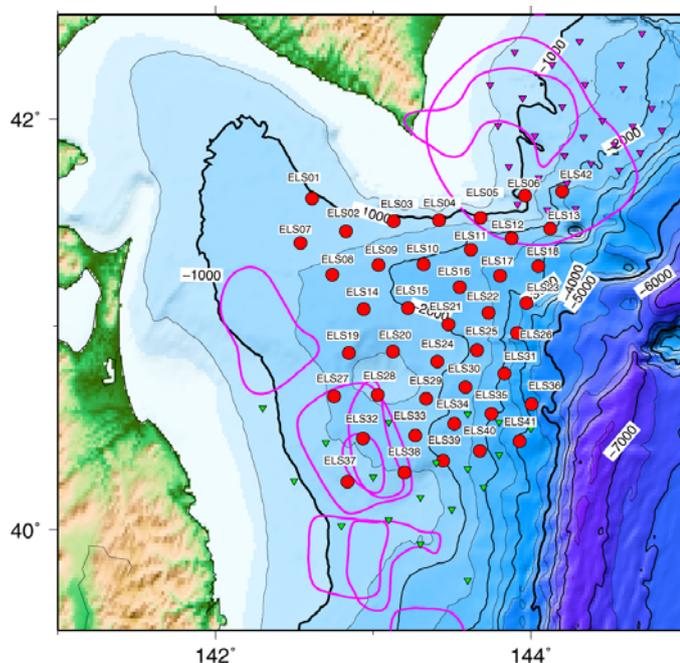
フリーエア重力異常と地形の比較図

(2) 日本海溝・千島海溝周辺の海溝型地震に関する調査研究

(2) (a) 日本海溝・千島海溝周辺におけるより正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

(2) (a) 1) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

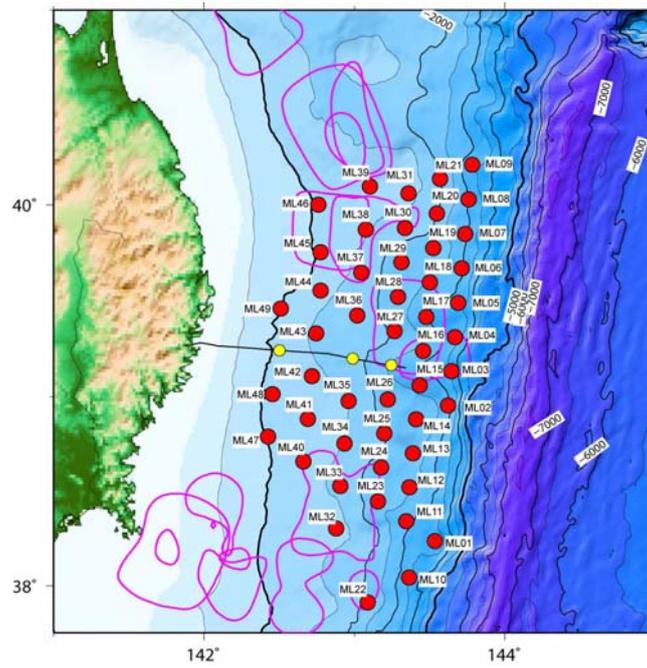
(3. 2. 1. 1. 参照)



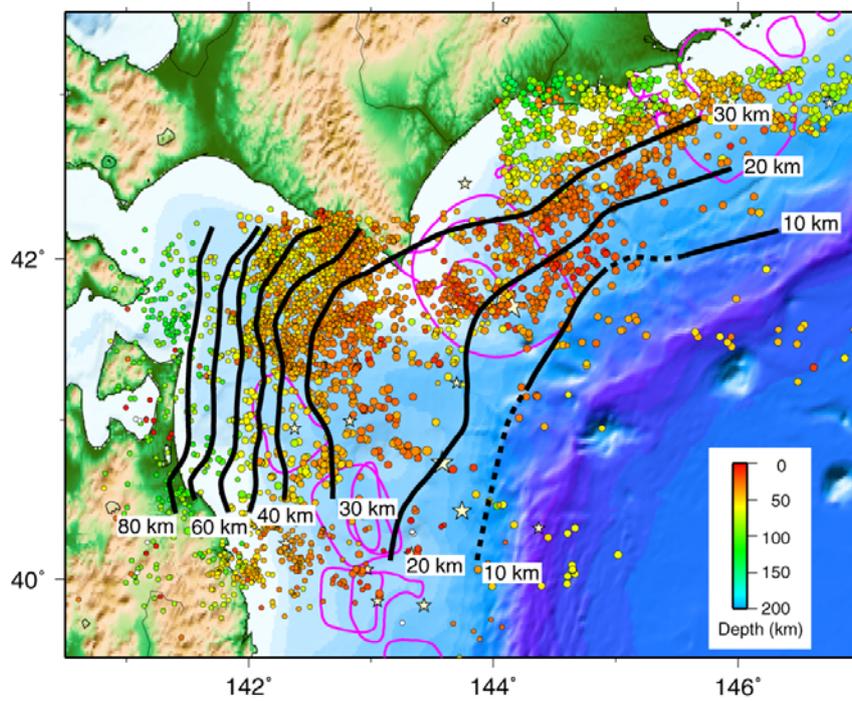
平成 19 年度に長期観測型海底地震計による観測を終了した三陸沖北部から十勝沖にかけての領域の観測網



三陸沖北部から十勝沖にかけての海底から回収した長期観測型海底地震計

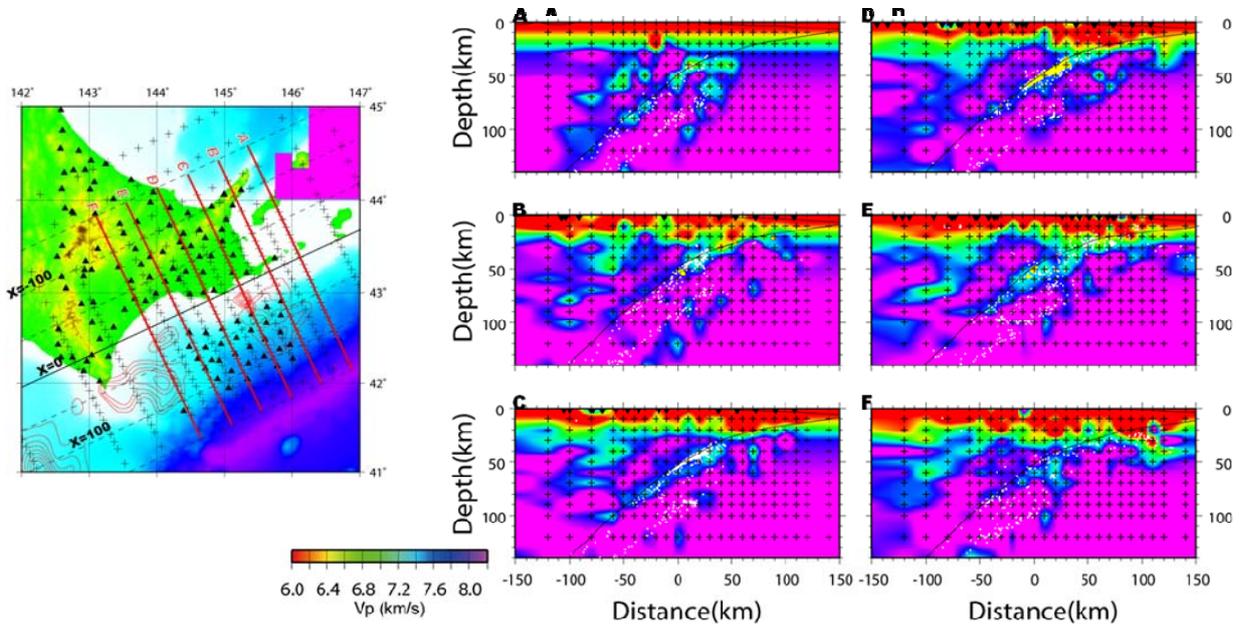


平成 19 年度に観測を開始した三陸沖中部から三陸沖海溝寄りにかけての領域における長期観測型海底地震計の設置点

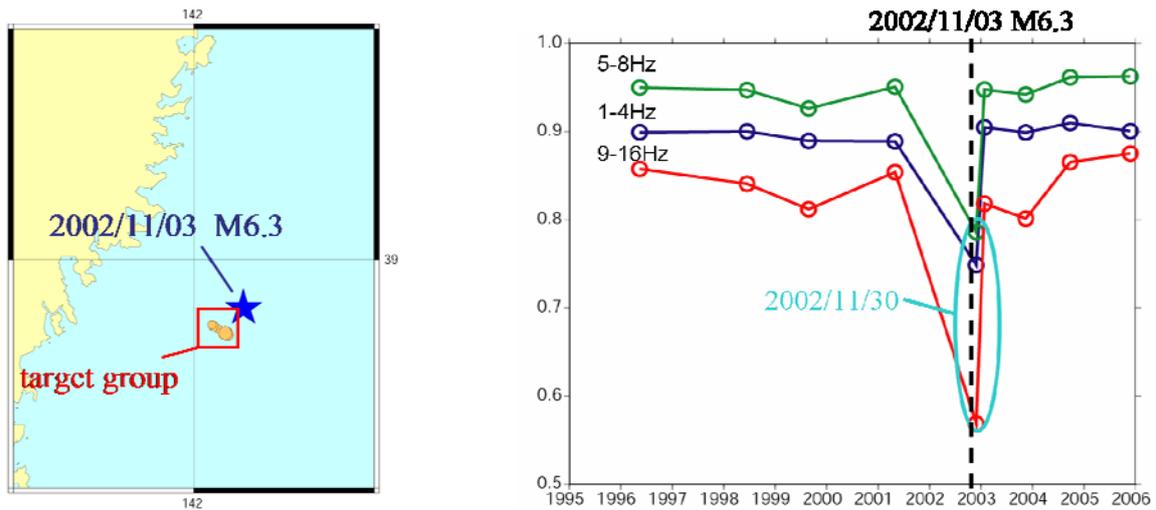


根室沖から三陸沖北部にかけてのプレート境界深度と再決定震源

(2) (a) 2) プレート境界及びその周辺域の 3 次元地殻不均質構造の推定
 (3. 2. 1. 2. 参照)



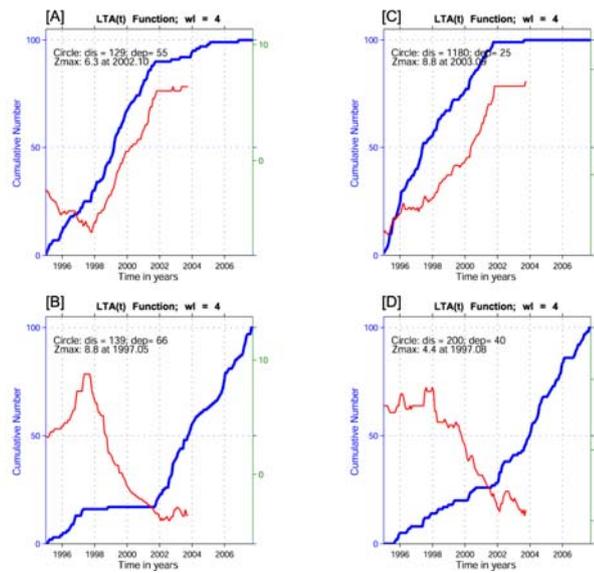
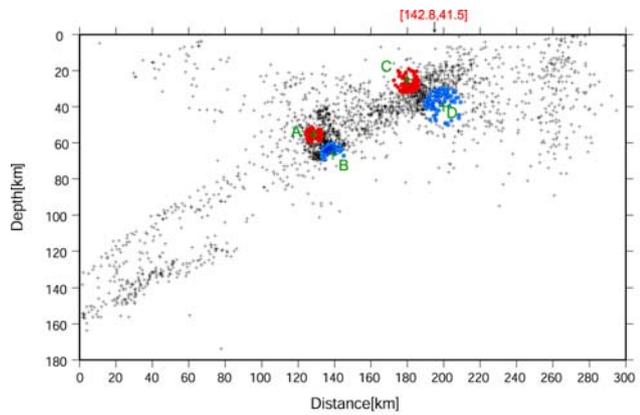
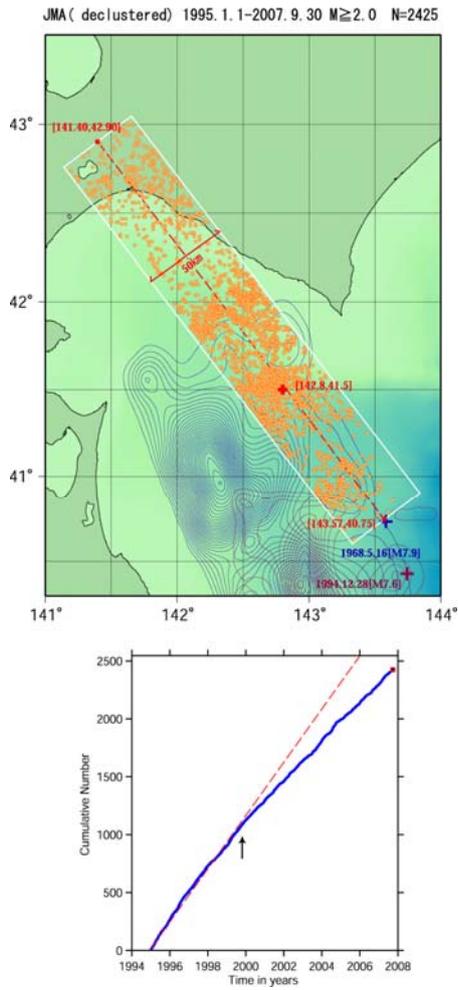
1973 年根室半島沖地震および 2003 年十勝沖地震の震源域周辺における海陸プレート境界
 周辺の 3 次元 P 波速度構造



宮城県沖で発生したプレート境界地震 (M6.3) 後の余効すべりによって生じた、小繰り返し
 し地震の地震波形の相似性の低下

(2) (a) 3) アスペリティ周辺の地震活動の特性に関する研究

(3. 2. 1. 3. 参照)

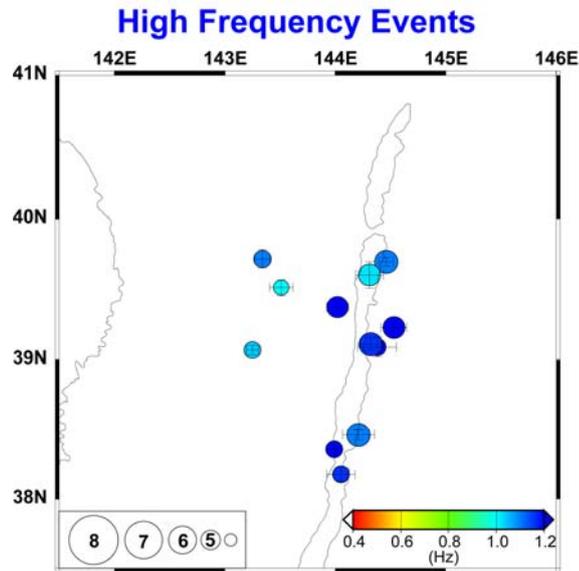


三陸沖北部の ZMAP

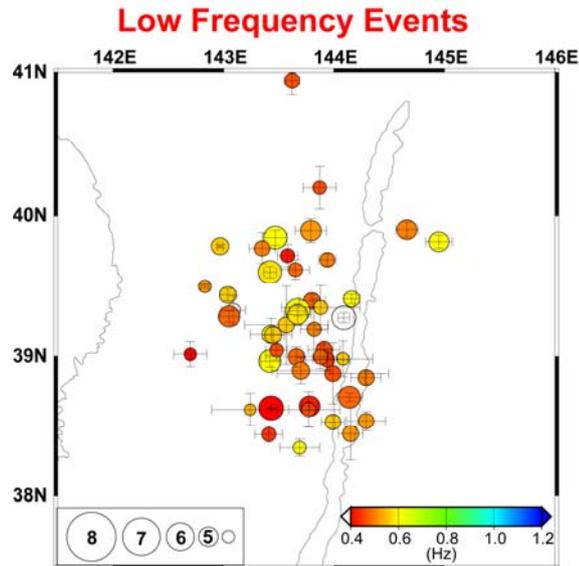
(2) (b) 過去の地震活動などの調査

(3. 2. 2. 参照)

(a)

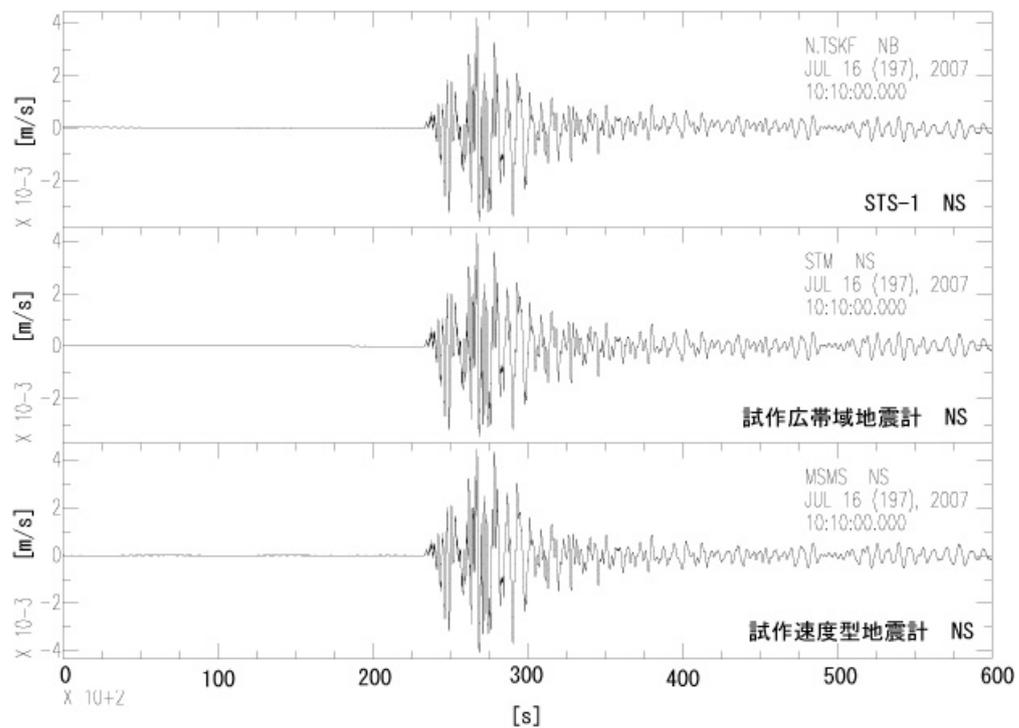


(b)



1933年三陸地震 (M8.1) の短周期成分に富む余震 (a) と長周期成分に富む余震 (b) の震央分布。カラーはP波初動から40秒間の平均周波数を表す。短周期成分の余震は日本海溝直下の狭い領域内に発生しており、長周期成分の余震は日本海溝西方のプレート境界に広く発生している。

(2) (c) 広帯域高ダイナミックレンジ孔井式地震計の開発
 (3. 2. 3. 参照)



試作地震で観測された2007年7月16日中越沖地震（深さ10km、M6.6）の地震波形